

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成19年11月15日(木)
生 徒 江釣子中学校 3年C組
男子19名、女子17名、計36名
指導者 教諭 黄川田潤一

1 単元名 五 論理の展開
教材名 「生き物として生きる」中村桂子

2 単元について

(1) 生徒観

全体的に落ちついた生活ができている。授業では、板書されたものをノートやプリントにしっかりと書いているが、発言には偏りがある。間違ふことを恐れていることや答えに自信が持てないことが原因だと考えられる。また、論理的な文章を苦手と感じている生徒が少なくない。難しい内容だと感じてしまい意欲をなくしてしまったり、筆者の主張や、そのよりどころなどをつかむことが困難だと感じている。グループ学習に関しては、教え合いや、感想交流などはどの班も取組んでいる。

(2) 教材観

本単元は、「文章の論理的構成をとらえ、自分の意見を深める。」ことを目標にしている。はじめに、理由や根拠に着目し、論理の展開をとらえる。合わせて、展開のしかたに隠された筆者の工夫も読み解き、最後に「説得力のある文章を書く」ことでまとめている。

本教材は、生物学者でもある筆者が、機械と同じように生き物(人間)までも「思い通り」に作ろうとすることに「歯止め」をかけ、人間も「生き物として生きる」暮らし方を考える必要があると説いた論説文である。全体的に、客観的な表現で書かれているので、筆者の意見を指摘しやすい。文章全体を大きなまとまりとしてキーワードを押さえながらとらえ、根拠となる一文、そして語句へと収束させていきたい。

(3) 指導観

一年生では各段落の役割について、二年生では文章のまとまりについて着目した。そうした学習を踏まえて、三年生では主張を支える根拠や理由に着目しながら読み取っていききたい。また、書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現にまで繋げていききたい。そのため、はじめに段落ごとに小見出しや要約文をまとめ、最終的には論全体に見られる展開の工夫をとらえ、意見文を書く学習へと進めていききたい。また、グループ学習をうまく活用し、教え合いの場を設定し、生徒個々の答えに修正や自信を持たせていききたい。

3 単元の目標

筆者の挙げる根拠と論理の展開や表現の工夫に注意して、生命と科学技術について考えを深める。

根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して、説得力のある意見文を書く。

4 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

・文章を読んで感じたり考えたりしたことについて、調べたり、話し合ったりしようとしている。

【読むこと】

・筆者の主張を支える論理の根拠を的確に指摘しているとともに、論理の展開のしかたをとらえている。(読む - Cイ)

・表現の仕方や文章の特徴に注意して読んでいる。(読む - Cウ)

【書くこと】

・例文や本文を参考にしながら、自分のテーマに即した意見文を書いている。(書く B - エ)

【言語についての知識・理解・技能】

・文脈上の意味の解釈が必要な語句について、一般的な意味との相違点に気づいている。
(言語 1 - イ)

5 指導計画と評価規準

次	時	学習活動	国語への関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能
1	1	「生き物として生きる」全文通読し、段落分けをする。	分からない語句や新出漢字にフリガナやチェックを入れている。		文章を読んで筆者のものの見方や考え方について感想を書いている。	
	2 ~ 3	形式段落ごとに要約文をつくる。	文章中に繰り返し出てくるキーワードを探している。		形式段落ごとにキーワード・キーセンテンスをとらえ要約している。	
	4	序論・本論・結論ごとに段落の関係を読み取る。	序論・本論・結論の関係に注意しながら、読み取るようになっている。		論全体のつながりを根拠をもとに読み取っている。	文脈の中における語句の意味を理解している。

1	5 ・ 6 本 時	「生き物として生きる」の論理の展開・表現上の工夫をとらえる。			書き手の論理の展開のしかたをとらえ、表現のしかたに注意して読んでいる。	
2	7 ～ 13	「生き物として生きる」を参考にして意見文を書く。	構成を工夫し書こうとしている。	自分の意見を根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書いている。		

6 本時の指導

(1) 目標

「生き物として生きる」の論の展開・表現の工夫を読み取ることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
読むこと	筆者の論の展開・表現の工夫を複数読み取っているとともに、根拠を適切に指摘している。(ワークシート)	筆者の論の展開・表現の工夫を読み取っている。(ワークシート)	前時に学習したプリントを利用しながら、展開・表現の工夫を助言する。(個人学習時)

(3) 展開

	学習内容	学習活動	留意事項と評価()
導 入 分	1 . 前時の学習の想起 2 . 学習課題の確認 筆者から説得力のある文章の書き方を学ぼう。 3 . 今日の学習の流れを把握させる。	・ 前時の学習を想起する。	・ 前時の学習を振り返り今日の学習の流れをつかむ。 ・ この論説文の論理の展開の特色をつかむことが、今日の目標であることを理解させる。 ・ 個人 班 全体という流れで行う。
展 開 分	4 . 学習課題の解決 (1) 個々に学習課題に取り組む。 (2) 班ごとに意見を交流し、まとめる。 (3) 全体で筆者の論の展開・表現の工夫を発表する。	・ ワークシートにまとめる。 ・ 各自が書いたものを発表し合う。さらに班員で協力しながら、まとめていく。 ・ 班ごとにまとめたものを発表していく。	・ 説得するための論の展開の工夫と表現上の工夫に着目させる。 ・ 前時に学習したプリントをもとにして課題を解決していく。 課題解決が不十分な生徒を中心に助言する。 ・ 意見交流のしかたについて説明する。(発表順、司会者) 課題解決が不十分な班には助言する。 ・ 全体でまとめる際には、班ごとに短冊にまとめ黒板に掲示していく。 班発表により、全体の状況を把握する。
終 結 分	5 . まとめ 6 . 次時の予告	・ 「生き物として生きる」の論理、表現の工夫をまとめる。	・ 全体で出された意見をまとめていく。 ・ 次時に行う意見文を書く学習につなげることを意識させまとめる。